

佐久市佐久っと支援金事業 自己評価報告書

評価日 平成27年3月31日

団体名	佐久の縁が和(輪)ぽっこ		
事業名	佐久の縁が和(輪)ぽっこ		
対象経費	145,551円	支援金額	43,000円

事業の目的・内容	目的 ①地域に居場所をつくることにより、みんなで支え合う地域力を高める。②気軽に居場所に参加することで、いろいろな縁が生まれ、理解し合い共に成長できる。③声をかけ合うことで引きこもり予防になり、こころの健康の保持・増進をめざす。④学習会、教育文化DVD上映など学ぶ機会を増やし、地域の交流を促進する。⑤本会の活動で得た情報を発信し、市内あちこちに居場所が広がるよう協力をする。
	内容 毎週1回(当初土曜から、現在は日曜)、地域の居場所として「えんがわぽっこ」を開いている。4～11月は午前9時から11時半、12～3月は午前9時半から11時半(GW・盆・年末年始休み)。内容は、参加者の声を聞きながら毎回テーマを決めて行い、上記の目的が達成できるよう努力をしている。

事業の活動実績	毎週1回午前中に開いている「えんがわぽっこ」は、毎月・山下新聞店発行ミニコミ紙(ご近所かわら版、白田と野沢地区全読者に配布)にテーマ内容が掲載されていることから、市民に広がりつつある。それで、参加者も増えてきている。今年1月～3月のテーマは、次の通りである。<1月>・柳沢さんの腹話術・ハーモニカ演奏で楽しもう。・抹茶を味わいながら、茶の湯にふれる①。<2月>・高倉健を偲ぶDVD「南極物語」上映。・日本初「ごみゼロ宣言の町」上勝町。・栄養士保科さん、「食べるって楽しい?」・日からうるこのDVD「認知症の取組み」<3月>・元教師三石さん「生きがいは?」。・抹茶を味わいながら、茶の湯にふれる②。・原発事故から4年、福島は状況は?・画家・星野富弘さんから学ぶ。・ふくらはぎもみ体操で身体を元気に。運営方法は「めだかの学校方式」で、参加者がある時は先生役、ある時は生徒役となる。地域に在住する専門家も「地域の財産」として参加してもらい、皆で楽しく高めあっている。
---------	--



<楽しく交流する参加者>



<ハーブ演奏で心豊かに>

事業の成果・効果	①「居場所」として地域の人の理解が広まり、参加者が増えてきている(当初予測より48人増えて計293人。1回当たりの平均参加者は10,9人)。②心を病む人、ダウン症の子と両親、一人暮らしの人たちが、「ここは安心してホッとできる所」と参加されている。③高齢者も住み慣れた地域で最期まで暮らすには、「こういう励まし合って楽しく過ごせる所」が必要と話されている。④ここに参加することで淋しさが解消され、いろんなことが学べ参加者の生きがいの一つとなってきている。⑤いろいろな人と交流が出来て、楽しい場となっている。⑥住民主体の居場所はまだまだほとんどないようで、シニア大学受講生や他地域からの見学者も来られている。
----------	--

事業は申請どおり実施できた	○1 できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3、4と答えた場合のみ)
事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	○1 できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3、4と答えた場合のみ)
実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	1 ほとんど同じ ○2 多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由(2、3と答えた場合のみ) ①初の冬のため灯油使用料も分からず、また灯油1ℓ単価当初102円から現在82円と安くなり約14000円の減。②更に参加者増で財源が8600円増えたこともあり、支援金要望額が減少となる。
その他、評価すべき点等	

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	住民が主体になってすすめる居場所のモデルケース的存在として、他の機関(長寿社会開発センター佐久支部、社協等)や他地域から注目され始めており、これに応えられるように努力をしていきたい。「あと3～4年したらお世話になりたいから、長く続けて欲しい」と何人かより要望が出ており、居場所の社会的役割の大きさを感じながら責任をもって対応をしていきたい。
---------	--